

RSウイルス と 細気管支炎

RSウイルス

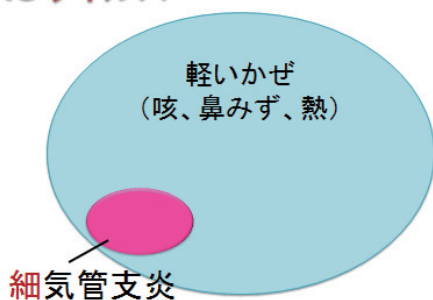
- ▶ 冬のかぜの原因ウイルスのひとつ
- ▶ たいていは、咳と鼻みず・熱
- ▶ 1歳までに半数、
2歳までにみんなが経験
- ▶ まれに赤ちゃんが細気管支炎をおこす

細気管支炎

赤ちゃん ゼイゼイ息苦しい



RSウイルス



毎年、寒くなってくると「RSウイルス」がテレビや新聞で話題になります。

「RSウイルスに感染する子どもが今年が多い!」とか、「RSウイルスに感染すると大変!」とか聞きますが、RSウイルスってどういうものなのでしょう?

RSウイルスというのは冬の「かぜ」の原因ウイルスのひとつです。このRSウイルスにかかっても、たいていは咳と鼻水くらいですんでしまいます。2歳までに誰でも一度は、知らないうちにRSウイルスに感染して「かぜ」をひいているのです。

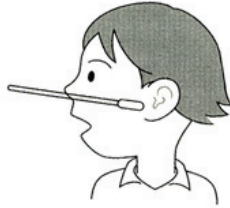
そんな軽いかぜのウイルスなのにどうして大騒ぎをするかということ、赤ちゃんがRSウイルスに感染すると、ときに細気管支炎という状態になることがあるからです。

細気管支炎というのは喘息のようにゼイゼイ苦しくなる病気で、とくに6か月以下の赤ちゃんでは重症になって入院することもあります。

このように細気管支炎が重症になると大変なので警戒しなくてはならないのですが、細気管支炎になるのはRSウイルスにかかった子の一部(主に1歳以下の赤ちゃん)だけなのです。ほとんどの子は軽いかぜ症状だけで、他のかぜウイルスにかかったのと変わりはありません。

RSウイルスの診断

検査キットがある



でも……………
RSウイルスかどうか
わかったところで
たいした意味はない

お母さんの反応

RSですか！

RSだったら
どうしよう！



保育園・幼稚園の先生から

RSかどうか、
調べてもらって！



RSウイルス感染で気をつけること

乳児で

- ・咳がつよい
- ・ゼイゼイしてる
- ・ミルクの飲みがわるい

↓
小児科へ！

RSウイルスにかかったかどうかは検査でわかります。インフルエンザと似た方法で15分くらいでわかります。3年前から外来でも1歳以下なら検査してもよい（保険がきく）となったので、検査をする医院が増えました。

でもRSウイルスの検査で陽性（かかっている）とわかったところで、症状が軽い**かぜ**ならとくに心配はないし、**RSウイルスに効く薬はない**ので治療はそのまま変わりません。逆に、咳やゼイゼイなどの症状が強くて**細気管支炎**が疑われるときは、RS検査で陽性であろうがなかろうが、入院も考えて細心の注意が必要になります。

私ども小児科医にとっては、**RSの検査をすることが大切なのではなくて、症状をよく見て、軽い風邪なのか、細気管支炎で苦しそうなのかを見分けることが大切なのです。**

そのあたりをマスコミは勉強不足のまま「RSがふえている！」「RSにかかったらたいへんだ！」と、まるで猛毒ウイルスがこの世に出現したかのような報道をするので、お母さんたちは怖くなってしまいますね。

私のクリニックに来るお母さんの中にも「RSですか？」と心配そうに聞かれる方があります。最近では保育所から「RSかどうか、調べてもらって下さい！」と言われることもあるようで、橋本先生は困っています。

まとめますと、RSウイルスは赤ちゃんがかかったときに、（まれに）重症の細気管支炎になるので気をつけなくてはならない病気です。でも大半の子どもたちにとっては、冬のかぜの原因ウイルスの一つにすぎません。このあたりを皆さんはよく理解していただいて、マスコミの過熱報道にあおられないようにしましょう。